

県立和歌山高等学校

実施日時 令和元年 11月 5日(火)

参加者 生徒504名、教職員44名、地域住民等0名 計548名

実施内容 講演、体験型学習

ねらい

本校、全生徒に対し、防災に関する教育を実施し、防災に対する知識及び実習における理解を図る。

主なプログラム

- 1 防災講話
- 2 体験型学習
 - ・簡易担架作成、体験
 - ・簡易ランタン作成

概要

- 1 防災講話
自衛隊和歌山地方協力本部副本部長合田さんに講話をしてもらった。内容は、防災に対する基本理念、災害時の心構え、行動の仕方等を、映像を通して講話してもらった。
- 2 体験型学習
 - ・簡易担架
棒と身の回りにある布(上着、毛布)で担架を作った。実際に、人を乗せて運搬した。
 - ・簡易ランタン作成
生徒が持っているスマートフォンに白いビニール袋をかぶせてランタンを作成した。

参加者感想文

- ・3年生 女子
津波の怖さを改めて感じました。自分自身が体験しないと、避難意識が出ないと聞き、納得してしまいました。私自身、他人事だと思ってしまうので、そこの意識を変えなければいけないと感じました。演習では、担架を作ったり、非常用ライトを作ったりしました。担架で自分

が運ばれる体験をしました。案外、しっかりしていてすごいなと思いました。

- ・2年生 女子

災害が本当にいつ来るのか、そのときに自分がどう動けるのかと今からでも少し不安です。きっと恐怖だってあり、動けないこともあると思います。それに知らない事も、今年聞いた事も思い出しながら見ていました。そして、担架の作り方を聞いてこんな作り方もできるんだと初めて知りました。とても簡単に作れるので、扱いやすいです。それだけでなく光の屈折を使ったビニール袋のライトも比較的明るくて良かったです。自分の家にもライトを、日光で充電しながら、暗くなると光る簡易なちょうちんを作って置いているので、災害の時に役立つと信じています。

- ・1年 女子

私は昨年家で停電になってしまって、電気がつかない日が3日ほど続きました。ろうそくを使って灯りをつけたりして大変でした。水も出ないから停電が終わったおばあちゃんの家に行ったりとかご飯を食べに行ったりとかして、いつもの生活ができなかったです。そのときにできる簡単な対策など知ることができてよかったです。停電ただけで普段の生活ができないのに、家が水没したりするともっと大変なんだと改めて学ぶことができました。

成果と課題

【成果】

- 内容と講師の方の創意工夫で生徒はいつになく落ちついた態度で講話を聞いていた。体験型学習でも興味をひくように創意工夫してくれて、積極的に生徒たちが参加していた。
- 近い将来、和歌山県で起こるとされている地震、津波で予想される被害状況を知り、自助、共助、公助の必要性を知ることができた。

【課題】

- 防災スクールを実施した直後は、防災意識も高まっているが、時間の経過する中でその意識が低下していくのが課題である。常に防災に対して意識させる取り組みが必要かと思う。
- 保護者及び地域住民の参加がなかった。今後も保護者及び地域住民の参加を呼びかけていくことが大事であると感じている。

